

乗用型摘採機導入のための弧状から水平仕立てへの茶園の中切り更新法					
[要約] 茶園の弧状から水平仕立てへの中切り更新を雨落ち程度の高さで実施する場合は7月上旬まで、雨落ちより10cm程度下げた高さで実施する場合は6月上旬まで、雨落ちより20cm程度下げた高さで実施する場合は5月中旬までがよい。					
担当部署	八女分場・茶研究室			連絡先	0943-42-0292
対象作物	茶	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

本県では省力化、軽作業化をめざして乗用型摘採機の導入が急速に進んでいる。乗用型摘採機を導入する場合、茶園の仕立てを弧状から水平に中切り更新する必要がある。中切り更新の時期、中切り位置、その後の整枝処理が茶樹の生育、収量に及ぼす影響を明らかにし、最適な更新技術を確立する。(要望機関名：生流課(H11))

[成果の内容・特徴]

1. 中切り更新の時期は、秋整枝面の枝数や収量性を考慮すると、雨落ちの高さで実施する場合は7月上旬までとする。また、雨落ちより10cm程度下げた高さで実施する場合は6月上旬まで、雨落ちより20cm程度下げた高さで実施する場合は5月中旬までがよい。
2. 中切り更新後、8月上旬頃までに展葉が4～5枚となり、整枝処理が実施できると摘採面の芽数が増加し、翌年の一番茶の収量低下が少なくなる。

[成果の活用面・留意点]

1. 乗用型摘採機導入のための技術資料として乗用型管理機利用の手引きに掲載し、活用できる。
2. 弧状から水平に更新する場合は、萌芽がばらつき病害虫の被害を受けやすいので、防除には注意する。
3. 中切り後の整枝は、中切り面より5～6cm上で新葉を2枚程度残し、8月上旬までに実施する。
4. 中切り更新後の萌芽の状態は、樹齢等による樹勢や、今回の中切り更新の高さと前回の中切りの高さの高低差等により、異なるので注意する。

表 1 中切り法とその後の整枝処理及び生育・収量

図 番 号	樹 齢 (年)	中切りの 高さ (cm)	中切りの 時期 (月日)	整枝時期 (cm)	秋整枝面の枝数		翌年一番 茶の収量 (kg/10a)
					中央部 (本)	両端 (本)	
34		雨落ち	5.18	7.22	21.6	29.2	277
		"	6.1	8.10	18.4	18.6	258
		"	6.23	×	11.8	15.7	235
		-10	5.18	7.22	16.6	18.2	254
		"	6.1	8.10	13.8	18.0	240
		"	6.23	×	7.8	13.4	224
		-20	5.18	8.10	16.0	17.0	233
		"	6.1	×	4.8	11.8	176
	"	6.23	×	2.6	9.3	138	

22		雨落ち	5.19	7.19	20.5	23.0	403
		"	6.5	8.9	18.0	15.5	467
		"	7.3	×	17.0	18.0	325
		-10	5.19	7.19	18.5	15.5	384
		"	6.5	8.9	13.0	12.0	468
		"	7.3	×	12.5	11.0	309
		-20	5.19	8.9	16.0	10.5	381
		"	6.5	×	11.0	10.0	339
	"	7.3	×	8.4	6.0	281	

8		雨落ち	5.19	7.19	18.7	17.3	318
		"	6.5	7.19	16.7	12.0	294
		"	7.3	×	18.3	11.3	290

注) 1. 中切りの高さの(-)は雨落ちからの高さ
 2. 整枝時期の×印は整枝不能
 3. 秋整枝面の枝数は20cm×20cmの枠内

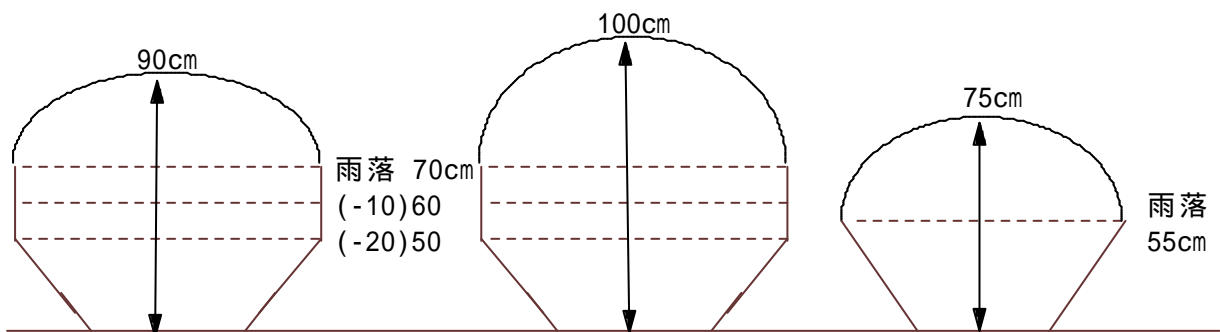


図 1 樹齢別の中切り更新位置

[その他]

研究課題名：簡易乗用型管理機による省力栽培技術

予算区分：経常

研究期間：平成13年度（平成11～13年度）

研究担当者：中村晋一郎・松田和也・森山弘信・堺田輝貴

発表論文等：平成11、12年度 福岡県農業総合試験場八女分場茶試験成績書